

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770500096		
法人名	有限会社 東朋の里		
事業所名	グループホーム どうほうの里		
所在地	石川県珠洲市宝立町宗玄24字2番地1		
自己評価作成日	令和 2年 1月 3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル		
所在地	石川県金沢市千木町129番地		
訪問調査日	令和 2年 1月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見附島海岸・恋路海岸の中間に位置した環境にあり、最年少者75歳、最年長者100歳で平均年齢88.8歳を迎えようとしております。まずは健康管理です。看護師を1名配置し利用者の健康には十分配慮しており、異常のある方にはすぐ主治医に報告し対応する体制を整えており、地域の医療機関とも連携を密にし御要望により、最期までお世話できる体制を整えております。入居者の方は高齢でも食欲があり、「食べることが何よりの楽しみ」を支援出来るように、地元の食材・能登産のコシヒカリ・野菜・魚など御近所からの差し入れもあり旬を味わっております。入居者・職員と一緒に『笑顔・優しい言葉・思いやり』をモットーに明るく・元気に笑い・唄うを大切にしています。入居者の方がアットホームな雰囲気の中で、穏やかに過ごし、ご本人様の望む生活が実現できるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創立開設者の運営・介護理念は、次代、次々代の管理者に確実に引き継がれながら、時代に適応した入居者本位を職員一丸となってしっかりと具現化させる原点に在る。また、同時に、社会的貢献や地元雇用、地域振興の面においても一貫した「地域密着」が継続されており、ふるさとの福祉・介護を愛情のこもった視点で俯瞰した入居者満足への数々の取り組み方は、ホームの敷地内だけでなく、「まち」にステージを上げたうえ提供されている。ホームの特徴としては、余裕を持たせた人員配置や、美味しいもの、季節の食材にこだわる食の提供など、入居者にやさしい取り組みを行い、県外から入所を待たれている方もいると聞く。入居者、職員も地域を含めて高齢化が進み、将来の運営については再編も検討してゆかなければならない不安を抱えているが、常に入居者本位を基本とする創業開設者の遺志を全員がしっかりと守ってゆく決意を有しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議での再確認、また玄関・各ユニット内で何時でも見られる所に掲げ、理念を共有できるようし、実践に繋がるようにしている	とうほうの里・理念として、「笑顔・やさしい言葉・思いやりをモットーに、のんびり楽しく共に生きる。歳をとって何よりも嬉しいことは、笑顔でやさしく声をかけてくれること、言葉をかけてくれること」と掲げており、職員自身に、利用者本位のケアとはどういうことかが気づけるようふりかえる指針にしている。この理念は先代の理念をもとに数年前に見直しを行った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会にも参加、草刈り・海岸清掃・祭りにも参加。また施設内でのバーベキューや餅つき等に協力して頂いている	地域住民として町会の清掃、神社の清掃、祭礼行事に参加している。ホームが行うバーベキューや餅つきには近所の人々が参加している。また、踊りなどのボランティアを招いたり、学校が休みの時は近所の3姉妹が歌を歌いに来てくれるなど、地域に根差した活動は生活の一部として浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方の事例や予防法などお話ししたり、ご近所の方で困ったことがあったら相談に乗れるような声かけをしている。施設の玄関にパンフレットを設置している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回会議を開催する中で入居者の状況や行事等の意見交換し参考にしている。アンケートの結果・改善策なども報告し意見をサービス向上につなげるようにしている	2ヶ月に1回の運営推進会議開催に伴い市職員、駐在さん、消防職員、区長、民生委員、近隣住民や家族など9名～10名が参加し状況報告等を行っており、長年の実績を踏まえサービスの質の向上にむけた意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市のケアマネ会議等で相談・支援・情報交換等行い、困った事あれば市役所に電話や直接相談している	運営推進委員会やケアマネ会議等で相談、情報交換等を行っている。長年の人脈を生かし、包括や病院、医師など医療関係、社会福祉協議会など、多くの機関とのネットワークが築けており、いつでも連携し対応できる体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員間で、施設内で入居者に対して身体拘束にならないように、外部研修に参加をしたり、職員会議の議題に挙げ職員一丸となり身体拘束をしないケアを心がけるようにしている。玄関の施錠については防犯の為夜間につき施錠している	3か月ごとに委員会を、全体では年2回、内部研修を行っており、外部研修にも参加し、事例検討会を行うなど、身体拘束並びに虐待について学んでいる。夜間は施錠しインターフォンで対応、日中は入居者が自由に外出できるようになっているが、入居者の安全確保のため、見守りは行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加をしたり、職員会議の議題に挙げたり、また新聞記事による虐待があった場合など施設内でも取り上げて、自施設職員が虐待を起こす事のないように防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時や家族背景が変わった時、制度を説明し必要に応じ支援している。成年後見制度を利用されている方もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居契約書・重要事項説明書等を用い十分に説明を行い理解・納得を図っている。改定時にも各案内等用いて行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加の際ご意見等傾聴するように行っている。また1年に1回アンケート調査を行い意見等を運営に反映させるようにし、報告もしている。	年1回のアンケート調査を実施。いつ家族が来所しても、家族の意見を聞くことができるよう管理者等は勤務体制には組み込まず、フリーで対応できるようにシフトを組んでいる。これまでに家族よりいただいた意見の中で、公道出入りのためにカーブミラーの設置、職員の言葉で傷ついた等の意見をもらい、職員全体で話し合う機会にしたなど、家族が話をしやすい体制を整えている。ご家族には日々の写真やお便りを送付し、入居者個々の暮らしぶりを伝え、来所されたときに生活に関する事や運営に関する意見・要望を聞いている。聞き取った思いはプランに組み入れ、本人本位の暮らしができるように支援にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には必ず参加し、提案を取る事やその都度改善事項等取るようにし、集計した結果をできるかぎり反映するようにしている。又年に数回個人面談等で職員との話し合いの場がある	これまでに職員から出された意見で、勤務時間を改善したことがある。2か月に1回職員会議を行い、管理者やホーム長が職員の意見を受け取る機会を設け、社長も定期的に顔を出し、職員が直接話しをすることもできる環境である。誰もが働きやすい、離職しない職場を目指す努力や職員を大切にしている様子が感じられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力を評価し給与の水準の見直しや職場環境の改善に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加や職員のレベルに合った課題に取り組めるようキャリアパス実践計画を立てて実践し、その実践内容も職員会議の場で成果発表を行って職員間での共有に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学や研究発表を機会の依頼を受けたり、地域のグループホームの管理者やケアマネ等の交流会に参加しサービスの向上に取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご本人が話しやすい環境を心がけて、傾聴する姿勢を示した上で、安心できるような環境・関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を出来る限り受け入れられるよう、面会時に近況報告や必要に電話連絡を行い関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との関わりの中からや他のサービス事業所等から出来る限り情報を得た上での対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる事(今までの経験や特技等)を活かし、ホームでの一員として役割を担って頂けるよう関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に本人の思いを聞いている場合、職員は代弁者として可能な限り情報提供し、本人と家族の橋渡しの役割を担うように心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限りお祭り等に出かけられる方は参加し、途切れないように努めている	地域の人や隣町の人の入居が多く、地域の行事への参加や、近所のお寺へのお参り、報恩講への参加、家族と一緒に行きつけの美容室に行くなど、なじみの関係継続に努めている。しかし、身体状況や外出への不安を感じる入居者や、家族が多忙であることなど、年々外出の機会は減っているため、その人らしい生活が送れるようホームとして、地域との関係を大切にしている姿が感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握するように努めて、孤立しないように声かけ等するよう関わっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙を頂いたりしているが、必要に応じて関係性を継続できるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からや家族との会話の中で、入居者の思い・希望に沿えるように心がけている	2ユニットが横に広がっている平屋の建物であることから、入居者は自由に行き来することができ、職員はすべての入居者の様子を把握している。本人の思いの把握は日頃の会話や仕草からくみ取り、いつもと違う様子には必ず寄り添う支援を行っている。また入居者同士の関係ができており、お互いに見守ってくれていることもあり、18人で一つの家族になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や様子を見て、その人らしい過ごし方できる様に現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム会での検討を含め、その都度必要に応じて変更している	主任とケアマネがプランを作成し、毎日支援方針にぶれがないか、モニタリングを行っている。2か月に1回外部からの意見もいただき、独りよがりの偏った支援にならないよう体制として整えている。プラン内容には本人らしく生活できるようにこれまでの生活歴をご家族にお伺いするなど可能な限り本人、ご家族の思いを反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録するようにし、情報を共有するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとり1人に合わせた活動やサービスに可能な限り対応出来る様に努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事・踊りへの発表会の見物等の参加、後見人の方の面会や衣替え等の際のお手伝い等支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り入居前の主治医を継続できる様に調整しかかりつけ医になるようにし、入居後も往診・必要時受診するなど行っている	入居者様のこれまでのかかりつけ医への受診を基本としているが、ホーム医が4人おり、入所後選択される家族は多い。専門医などの受診に職員が付き添うこともあるが、家族が連れて行くときは日頃の様子を書面で渡し、情報提供を行うなど医療機関との情報共有が密に図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名で24時間対応の体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、可能な限り医師の治療方針等を把握するようにし、また病院関係者と情報交換を行い早期に退院できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になる前や重度化した場合、本人・家族の意思を確認して、事業所としてできる事を理解してもらった上で終末期になれば主治医・家族・職員と情報共有を行いながら看取りを行っている	契約の段階から家族に終末期について説明をされており、段階的に状態に応じて医師の参加の下で何度となく説明を行っている。看取りの経験はあり、主治医と職員とは必要時何度も会議を行い、その人にとって一番良い支援は何かを考えている。看護師は常時対応でき、家族の宿泊は可能であるなど、体制が整えられており、「温かい支援をしてくれた」と家族から言葉ももらい、職員の励みにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、急変時等あった場合起こりうる事を想定し情報の共有できるようにして実践力を身につけてもらうようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施でその際消防署より職員の方に確認してもらい指導を受けている。また夜勤の職員は2名での出火を想定した平面図上での避難訓練を実施している	年2回開催する避難訓練は、消防職員立ち合いのもと夜間を想定した避難訓練を実施している。非常事態を外部に知らせる為、道路側の看板に回転灯を設置している。今年度は救命胴衣を用意し津波に備えている。また全員で机の下に隠れるなど地震対策も行った。何かがあれば近所の協力が得られるよう日頃からかかわりを持っている。入居者が集う食堂や居間には耐震補強もされており、ホームとして災害対策もしっかり視野に入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議での研修実施。ひとり1人にあつた声かけ・言葉かけの対応に心がけている	職員は、入居者様と好きなことが言い合える信頼関係を大切に接しているが、対応が馴れ合いとならないように努めている。援助が必要な時も人前であからさまな介護や言葉かけをしないよう、ご本人が分かりやすい言葉を選び、自尊心に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思表示がしやすいように、職員は傾聴する姿勢をするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、無理なく本人なりの1日を過ごして。希望がある際は本人に選択できるような関わりを持って支援するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みに合わせた自由に選択できるように心がけてる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の方から季節ごとの野菜を頂き、地元の野菜を使った献立に、調理の際の下ごしらえ(皮むき等)手伝ってもらい、出来る範囲内でテーブル拭きやお盆拭きなど行ってもらっている	1週間分献立を作り、食材を注文したり、買い物に出かけることもある。近所からのもらい物で献立を変更したり、季節の食材をメニューに取り入れている。お刺身が食卓にのぼり、晩酌をしている人もいる。誕生日には本人にケーキのリクエストを聞き、近所にある人気のケーキ屋さんに注文している。梅干しや干し柿も入居者様の手作りで、雑煮やおはぎ、恵方巻など行事食にも力を入れている。毎日の食事の準備には、下ごしらえを手伝って頂いたり入居者様の出来る範囲の事を、押しつけせずに自主的に行えるよう声かけを行っている。また年に1回は外食を設けており、入居者も職員も楽しみにしているなど、ホームとして食べることにはこだわりがあり、充実していると話される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態・量を考えて、栄養のバランスを考えて提供するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝る前に義歯洗浄し、必要な方はポリデント等の洗浄剤を使用している。適宜必要な際口腔ケアを促すようにしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握する為、記録してトイレでの排泄ができるように支援している	入居者様の排泄パターンには排便の量や形状も記録し、職員全員が把握に努めている。本人からの希望があれば、トイレでの排泄を行っている人には夜間もトイレへ誘導し、プライバシーに気を配りながらさりげなく支援ができるよう、その方の状態に応じた声掛け対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動、排便チェック表で確認しながら、便秘にならないよう対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回入浴できるような環境であり、入浴した際は入浴を楽しめるよう心がけている。	週2回入浴ができるよう、支援しており、季節を感じられるように、ゆず湯やしょうぶ湯を取り入れ、湯舟の温度や入浴剤は好みに応じて対応している。入浴時間は本人の希望に添えるよう、順番などを検討し、入浴方法もその方の状態に応じて変更している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり1人の思いで好きな時間に自室で休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報綴りがあり何時でもみれるようにしている。また内服変更時申し送りを活用したり、内服薬の袋に記載するなどし理解できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り楽しんで頂けるような支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お寺のお参り・お講の参加・墓参り・買い物・ドライブの際にご自宅周囲へ出向く等出来る限り希望沿えるように努めている	体調や天候を見ながら月に2回程度、ドライブに出かけるよう支援を行っている。個別対応を心がけており、行く場所や行くメンバーなどを調整し、近所のカフェや買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っていたいと希望される方は所持している。個々の能力によるが、買い物を希望や物品購入の依頼、自動販売機で飲み物購入などしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用できる時間帯を設けているが、自由にやりとりできるようにしている。また家族の方より電話が掛かると本人と直接お話しできるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節を感じる飾りつけなど工夫している。不快等を感じないように清掃に気をつけている	木のぬくもりが感じられる空間であり、玄関には季節に応じた花が飾られている。入居者様と一緒に作った装飾が飾られ、明るく広い空間で日中を過ごされており、過ごしやすい空間作りに努めている。食堂は天窓があるため隅々まで明るく、高い天井を支える柱には耐震補強がされている。また避難路はいくつもあり、長年の介護の知識、ノウハウを存分に生かし、よりよい介護だけでなく、安全面でも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファ、玄関ホールに足マッサージ器を設置している。食堂ホールでは音楽を流すなど行っており、各々過ごしやすいように心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいよう極力使い慣れたものを持参するようにしている。	居室は、ベッドや洗面台、カーテン、エアコン、布団が備え付けられている。空きスペースには、今まで自宅で使っていた家具等も持ち込む事も出来る。またテレビや電気毛布など、これまで行ってきた生活が継続できるよう、持ち込むものについては一緒に考えていく姿勢がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりの為、ヒヤリハット等も参考にして危険予知に努めて環境を整えるようにしている		